

結実状況が判明してきましたので、結実の良好な品種は予備摘果、仕上げ摘果等の管理作業を実施しましょう。尚、ふくろみ病被害果は、摘果をして園外へ除いて下さい。また、シンクイムシ類の成虫の発生数が増加してきてます。今回の薬剤散布は、初期の発生密度を抑えるため、前回の防除から開かないように努めましょう。

1. 薬剤散布 隣接園（特に収穫期の作物）に飛散しないように注意して下さい ≪プラム≫ 前回散布から 10 日後

・散布時期：	5 月末～6 月上旬（5 月 30 日～6 月 10 日頃）		
・散布薬剤：	水	100ℓ 当り	・散布日 月 日 ・散布量 ℓ
	展着剤	10mℓ	
	⑧ イカズチ WDG	66g（収穫前日、2 回以内）	
	* マイコシールド	50g（収穫 21 日前、3 回以内）	
	⑧ ダーズバン DF	33g（収穫 14 日前、2 回以内）	
・対象病害虫：	アブラムシ類、黒斑病（かいよう病）、シンクイムシ類、ウメシロカイガラムシ		
・散布量：	10a 当り SS500ℓ 動噴 600ℓ （散布むらのないよう注意する。）		
・注意事項	* 収穫前規制のため、大石早生はマイコシールドを使用しない。 * 摘果果実は、腐敗病・シンクイムシ類の伝染源になりやすいため、園外へ除去する。（葉のせん孔に注意する） * カメムシ類（シンクイムシ類）の発生がある場合、アルバリン顆粒水溶剤 2000 倍（収穫前日、3 回）を特別散布する。		

* スモモヒメシンクイ発生状況	各地区フェロモントラップ調査:5/20 の状況
（倭地区 52 頭）（上今井地区 1 頭）	5 月中旬から増加しています。 防除の徹底を！

次回の散布 前回から 15 日後 ≪大石早生など最終防除≫

・散布時期：	6 月中下旬（6 月 14 日～25 日頃）		
・散布薬剤：	水	100ℓ 当り	・散布日 月 日 ・散布量 ℓ
	展着剤	10mℓ	
	フルーツセイバー	66mℓ（収穫前日、3 回以内）	
	サムコルフロアブル 10	40mℓ（収穫 3 日前、3 回以内）	
・対象病害虫：	灰星病、シンクイムシ類、（ハマキムシ類）		
・散布量：	10a 当り SS500ℓ 動噴 600ℓ		
・注意事項	* 秋姫・紅りょうぜんなどで黒斑病（かいよう病）の発生がある場合、バリダシン液剤 5 の 500 倍（14 日前、4 回）又はスターナ水和剤 1000 倍（7 日前、3 回）を加用散布する。 * フルーツセイバーに代えてナリア WDG 2000 倍（7 日前、2 回）でもよい。 * （シンクイムシ類）カメムシ類が発生する場合は、ダントツ水溶剤 2000 倍（3 日前、3 回）を加用散布する。		

≪プルーン≫ 前回から 15 日後

・散布時期：	6 月上旬（6 月 1 日～7 日頃）		
・散布薬剤：	水	100ℓ 当り	・散布日 月 日 ・散布量 ℓ
	展着剤	10mℓ	
	⑧ スプラサイド乳剤 40	66mℓ（収穫 14 日前、2 回以内）	
	オンリーワンフロアブル	50mℓ（収穫前日、3 回以内）	
	アーデントフロアブル	50mℓ（収穫前日、3 回以内）	
・対象病害虫：	カイガラムシ類、灰星病、ハダニ類、（シンクイムシ類）（ハマキムシ類）		
・散布量：	10a 当り SS500ℓ 動噴 600ℓ （散布むらのないよう、十分に散布する）		
・注意事項	* 摘果果実は腐敗病の伝染源になりやすいので、土中深く埋めるか、園外等へ除去する。 * アーデントフロアブルに代えてアーデント水和剤 1000 倍（前日、3 回）でもよい。		

・ 今後の管理

＊プラム・プルーンともに、摘果果実は腐敗病の伝染源になりやすいので、園外へ除去する。
特にふくろみ病被害果は翌年の伝染源増加につながります！

- ・ 仕上げ摘果→見直し摘果。
- ・ 支柱、枝吊りの実施。
- ・ 園内が暗くなりやすいので新梢を整理しましょう。

貴陽については、裂果対策及びスレ防止のため傘かけを行ないます。6月末をめど（ブルームがのる前）に実施しましょう。（傘寸法130㍓・ホチキスでとめるタイプ）

ふくろみ病について



〈病原菌の生態，生活史〉

- ・ 病果の表面に形成される白粉は子のうで、これから胞子が飛散し、枝の表面や芽の付近に付着する。付着した胞子は出芽して分生子を生じて、分生子で越冬して次年度の伝染源となる。
- ・ 春先の降雨で分生子が飛散し、落花後まもない幼果に感染する。
- ・ 発病果から健全果への2次伝染はない。

〈発生しやすい条件〉

- ・ 発芽～落花にかけて降雨・冷涼な日が多いと発生しやすい。
- ・ ソルダム、大石早生、プルーンが発病しやすいが、管内はエレファントハート、菅野中生、大石早生に被害が多い。菌密度が高い園地では太陽にも発生が見られています。

〈本年の発生要因と気象〉

- ・ 本年、発芽後の4月1日、6日、7日に降雨があり、分生子の飛散条件に当てはまる。
- ・ また、開花期である4月13日、14日と満開にまとまった降雨があり感染しやすい気象条件であった。

〈耕種的防除〉

- ・ 発病した果実の園地外への持ち出し。＊受粉樹も忘れずに！
- ・ 持ち出しが出来ない場合は、園地内での焼却または、穴を掘って胞子が飛ぶのを抑える。
- ・ 被害果を落としたままにすると、園地内の菌密度が高くなり翌年の発生につながります。

〈薬剤防除〉

- ・ 発芽前の石灰硫黄合剤と発芽後3日のトレノックスフロアブルの散布。
- ・ 散布の際は樹体（芽）にしっかりかける。